

# 社団法人 おおさき青年会議所

## 2012年度 人間力開発委員会

委員長 伊藤 真

### I. 基本方針

あの日、私たちのかけがえのない大切な人を奪い去った。  
あの日、私たちのそれまでの夢や希望を壊していった。  
けれども、私たちは、一人ぼっちじゃない。  
この地域に生きる限り、この地域に育つ限り、  
私たちは「絆」でつながった家族であり、仲間であるのだから。

日本経済が「失われた20年」と呼ばれて先行きも不透明である昨今、日本政治は拠って立つ軸及び対立軸を見失い、依然として漂流した状態にあります。私たち大人にとっても先行きが不透明な時代であり、将来に向けての夢や希望、目標を持たずに「漂流する」子どもたちがいることは当然と言えます。

しかし、不透明かつ漂流する時代だからこそ、この地域に生きる子どもたちには、地域の成り立ちをよく知り、地域に根ざす多くの人々と関わることでしっかりと根を張る場所を確立し、「共に生きる」ことの大切さを持ち続けてほしいと考えております。そのために、私たちは地域に生きる子どもたちがどのような課題を抱えているのかを受容する必要があり、課題解消のためにどのような指針を示していくべきかを検証する作業が重要となってきます。また、これまで先輩方が青少年育成事業として地域の子どもたちに働きかけてきた歴史を一つ一つ検証する作業は、事業展開の上で大きな道標になると考えます。

2011年3月11日の東日本大震災以降、「絆」という言葉を縁（よすが）とし、私たちは家族と支え合い、仲間と助け合い、地域と触れ合いながら生きることの大切さを改めて認識致しました。先般公表された宮城県震災復興計画の『未来を担う人材の育成』におきましては、次の記載が見られます。『復興活動は「絆」という人と人との結びつきを核』とした上で、『子どもたちに他者や社会との関わりを再認識させた今回の震災の経験を生かしながら、本県独自の「志教育」に一層取り組み、我が国や郷土の発展を支える人づくりを推進』する。自己の成長としての「才」、他者への関わりの指向としての「夢」、自己と他者との相互連関としての「役割」が融合することで「志」が芽生えんとするならば、私たちが地域に生きる子どもたちに対して提示すべきことは、自己の成長につながる地域の魅力への気づきを与え（才）、地域に対して自己の意見を展開する場を提供し（夢）、自己と他

者の意見について共有できる機会を創出させること（役割）であると考えます。私たちがこれらを提示することで、おおさき地域で「共に生きる」家族、仲間、そして地域をいつまでも愛する気持ちが子どもたちの中に生まれ、おおさき地域から強い「志」を持った人財が育つと確信しております。

人間力開発委員会では、次世代のおおさきを担う子どもたちが地域と共に「おおさきの志」を培う機会が得られる事業を展開して参ります。一年間、よろしくお願い致します。

## II. 事業計画(案)

### (1) 次世代のおおさきを担う青少年を育成する事業の実施

#### 【目的】

おおさきを担う子どもたちに、「共に生きる」気持ちを享受させる機会を創出する。

#### 【手段・手法】

おおさき地域の子どもたちが抱える課題を検証し、地域愛を育む青少年育成事業を実施する。

### (2) おおさきの明るい将来のビジョンを描いた事業の実施

#### 【目的】

青少年、青少年の育成にあたる親・地域住民に向けた「おおさきの志」醸成の機会を創出する。

#### 【手段・手法】

「おおさきの志」を培う機会となる事業を実施する。

### (3) 仮会員研修の実施

#### 【目的】

「明るい豊かな社会」を共に築いていくための人財を育成する。

#### 【手段・手法】

委員会開催時に勉強会を行う。また、各種大会及び LOM 事業等への積極的な参加を呼びかけ、青年会議所活動への包括的理解を深める。

### (4) 例会主管（4月 11月）

#### 【目的】

おおさき地域に必要とされる青少年育成事業の構築。

#### 【手段・手法】

①4月例会においては、おおさきの明るい将来のビジョンを発信する例会を実施する。

②11月例会においては、本年度実施の事業を検証し今後の事業構想に向けた提言を実施する。

(5) 会員の資質向上に繋がる委員会運営及びその他

**【目 的】**

青年経済人として地域から必要とされる人財の育成。

**【手段・手法】**

政治・経済・社会問題等の時事情報を新聞や書籍等を用いて、委員会開催時にメンバーで話し合う時間を設けることでメンバーの資質向上に繋げる。